

時事新報

第三千二百一十一號
 明治廿四年十二月三日 (癸亥)
 舊曆辛卯十一月三日
 本報日
 出刊時間
 午前八時三十分
 午後六時三十分
 印刷時間
 午前八時三十分
 午後六時三十分
 (西曆一千八百九十一年)

時事新報定價
 時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物
 價報告あり其代價運送料廣告料は左の如し
 一 一月 三圓 三月 九圓 六月 十六圓 一年 三十圓
 一 半年 十六圓 一年 三十圓 三月 九圓 六月 十六圓
 一 零售 每份五分
 一 郵費 在東京者郵便代外 在東京外者郵便代外
 一 印刷 印刷費 印刷費 印刷費 印刷費 印刷費 印刷費

本社(寄稿)付

東京府下を始め各府縣に通信社あるものありて是より
 各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を
 撰選するより各社同一の記事を取らざるも其からず獨
 り時事新報社社員並に通信員の多きを以て斯類の止
 り通信を依頼せずとも世間往々此事を知らずして通
 信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信
 ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も多
 たらざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に
 本社に向て發送あらんとを請ふ

時事新報

政黨と新聞紙

新聞紙は人間社會に起る重要な出来事を漏さず紙面
 に記載して廣く公衆に報道するを以て本務とすその
 にして之を讀む者は坐して天下の事情を知悉するも
 恰も身を天外に遊して下界に降臨して千差萬別の状
 況を詳にするものに異ならず實に是れ近代文明の一大利
 器にして苟も之を讀まざる者は文明の民に非ずと云ふ
 も過言に非ざる可し然れども其利の大なるものは其害
 も亦大なるものと事物の常態にして新聞紙の如きも若し
 も其弊する所事實を誤りて讀者を惑亂する様のみならず
 りては容易からざる弊害を來す可ければ世の新聞事業
 に従事するものは深く愛に注意して日々其弊害を報
 ずるに當り事實を有りの儘に記して陰蔽庇曲するも
 亦さば勿論、其事實に就き意見を吐露して世の注意を
 惹起せんとするも務めて百般的の偏僻を脱却し我
 必を盡して公平不偏の議論を立つるものと専一とせ
 る可からざるに人の性質として何事にか心の偏せざる
 者以て其弊を補して例へば學者は理論に偏し政治家は
 政論に偏し商人は利益に偏するが如く多少の偏僻は誰
 れにも免れんと免かる可からざるも亦れば新聞紙の
 記事論説をして都て正確公平ならしむるは甚だ容易
 らざるなりと知る可し殊に近來は世間に漸く政黨の流
 行を著して政府も自から一方に特色を現はし各派の
 争大第に闘しを加へんとするの勢あるに就ては新聞
 紙も大體政黨に隨ひて各自の關係ある處に就て其機關
 とあらざるはかく眞實に無所偏の獨立新聞紙とては其
 數僅かに指を屈するに足らざるが如し元來政黨あるも
 のは其官たり民たるを問はず政治上の主義を同一した
 る人々の集合團體にして其黨派の結合を固くして相離
 れざる所以は唯一の主義を中心にして之に集るのみ

人に與みするに非ず主義に與みするのみならず或れば
 苟も我意見が政黨の主義に一致するときは之に加入し
 一致せざるときは之を脱するのみ其去就の如何は甚だ
 自由にして毫も他より束縛せらるるものと爲る可らず
 は世間普通の議論あれども事の實際に於ては大に然ら
 ざるものありて一度政黨に加入するときは之に一種の
 情實を生じ終始自黨の爲りに力を盡して其隆盛を謀り
 之が方便として或は人に公言すべからざる掛引の運
 動を爲すも或はさへもさき非ず例へば我本心に於ては
 黨論に感服せざるも或は先づ差控へて異論を云
 はざるは勿論、時宜に依りては故らに我本心に反對の
 論を唱へて自黨の爲りに盡すの必要を見るも亦ある
 可し政黨員の魂膽決して容易ならず其進退運動は世人
 の思ふが如く無味淡白なるものに非ざるなり蓋し政黨
 も他の團體に異ならずして之を組織する人々が皆一同
 に其黨派を祈り之が爲めに身を抛つての覺悟なければ
 ば到底永續すべきものに非ず即ち國民に愛國心ありて
 國の立行くと同じく政黨員にも亦愛黨心ありて之を始
 めて政黨の隆盛を見るもなれば政黨員が始終自黨の
 利害に心を注ぎて専ら之に忠義を盡すは即ち自ら自身
 保存の大運に基きたるものにして若しも黨員が各自
 獨立の意見を持して自黨を思ふの情冷淡なるものと
 らんには黨派の衰滅は期して待つべきなり左れば我輩
 は固より政黨員が己の黨派の爲めに心身を犠牲にする
 ものと容るるものには非ざれども茲に甚だ掛念に堪へ
 ざる所のものは政黨の機關たる新聞紙が我黨派を擁護
 稱揚せんとするの熱心に乘じて其記事論説の公正を失
 ふことなき平の一事あり our country, right or wrong
 (善にも惡にも我國の爲め)とは愛國者の名言なり政黨
 員も亦これに倣ひて our party, right or wrong (善
)も惡にも我黨の爲め)ある金言を守り我黨派の所爲と
 われば其何たるを問はず之を賛成し之を擁護するを以
 て其職分とす者少からず今此流の愛黨者が新聞記者
 とありて時事を論ずるに當り其議論果して公平なる
 得べきや否やと問はば故らに之に答へざるも讀者の
 心に了知する所ある可し論説の偏僻は尙ほ之を恕す
 可しとするも性質の劇しき政黨新聞味方新聞に至て
 は實際に切り切つたる事を報道するにも婉曲に筆を運
 らして事實を掩ひ以て他を害して自から利せんとする
 ものあり否は婉曲の筆を以て不文拙劣を極め却て馬
 脚を露はして人に笑はるるものとさへさき非ず斯る淺
 き記事にても或は一時その政黨の爲りに利するも
 ともあらざらんれども社會の出来事を記して公衆に報道
 するを以て自から任する新聞紙とては殆んど價なき
 もの云はざるを得ず左れば世人が新聞紙の記事に依
 りて時情を詳にせんとするに其購讀すべき新聞紙
 を撰定するに當り大に注意を要するものと知る可し都
 て人は己の意見に附合したる説を聞くことを樂むもの
 にして假令公論は知りながら尚ほ我思ふ所に適
 し我欲する所に叶ひたるものと聞て快しとするは誰

れしも免かれ難き人生の弱點にして其口口に苦し忠言
 耳に逆ふの古語も畢竟するに是等の事實を表はしたる
 者に外ならず彼の朝野雙方に屬する政黨新聞の偏僻甚
 だしくして自黨を庇保せんと欲するの餘り遂に事實報
 道の義務を忽せにするが如きものは誰れ人も見るを屑
 しとせざる筈あれども其身既に政黨の中に蒸されて政
 熱に浮かざるは之を見ても無上の愉快を覺え如何
 ある論説もいよく讀むに従ていよく面白く心中の
 偏僻は益々増長して遂には人事物論の是非を辨せざる
 政狂人を現出するに至るもの多し政黨新聞の弊亦大
 りと謂ふ可し左れば新聞紙を以て一種の新聞と爲し我
 意に適するを見て樂しむ者はいざ知らず苟も其記事論
 説に依頼して世間の事情を詳にせんと欲する者は或る
 丈け一黨派に偏せざる獨立の新聞紙を撰ぶも且必要
 可し斯く云へばとて我輩は世間の政黨新聞は盡く
 ひに足らずと云ふに非ず又政黨に屬せざる新聞紙の記
 事論説は皆必ず正確なりと云ふにも非ず唯ふれを平均
 したる所にて政黨の機關たるものは無所偏の獨立新聞
 紙に比して偏見に陥るの弊多きを得ずと云ふまでの
 とされば讀者幸に微意を誤る勿れ

秋聲

十月八日土京君士但丁堡に於て
 時事新報特派員 野田正太郎
 憂いと哀しむる間に於て肌寒き秋ともなれば
 ホット穴の中に入りたる心地なる人も静まり憂さ
 へ消えたるシンの夜中、孤客枕上耳を澄せば風に非
 ず雨に非ず吹々として泣が如く嗚々として訴ふるが如
 き一種無聲の聲あるを聞く嗚呼是れ秋聲に非らずや、
 球上億萬の日に死する者無算されども夫れと氣の附
 くものとさへさきに彼の縁ありて世に名を知られたる人
 々の凶報に接すれば感傷の餘り涙の聲陰々として地上
 に響き渡るが如き思ひあるは何ぞや嗚呼是れ人世の秋
 聲に非らずや先きに武將軍の自殺を報じて其筆未だ乾か
 ざるに英國愛蘭黨の首領たりしパーナル氏が昨七日
 リントンに於て死去の報あり長らくの範圍事件も隨分
 體に障りしものとやら近來自黨の困難も多少健康を害
 せしものとやら、兎に角意氣の凶報にして其
 病狀に付きてすら未だ詳報を得ざる程なれば何ぞも申
 様されれば若し此の出来事が今より二年前に起りし
 ならば、即ち此の無冠の帝王がグラッドストーンの應
 援を得て聯合愛蘭黨を引率したる當時に起りしならば
 英國政治社會に非常の影響を及ぼせしものとやら、今
 更思ひ違らざれば大筋あれども此間中の様子にては氏の
 一死、左まで相境を在はす程の事も無かる可し愛蘭黨
 の再聯合に付影響如何は差當の問題あるが如し、雖も
 是れ又大抵運命定められりと云て可なり氏の經歷に就
 て簡短なる批評を下せばチャールズ、パーナルは武
 將軍の流に非ず疑ひも亦く一大伎倆を有し殊に頭領と
 して最も要する人心を信服せしむるの一段に於ては
 近頃珍らしき一大魔力を備へたるものと云ふ可し彼の
 多々たる政治家が人心を激せんが爲め常に利用する一
 種賤劣の手段は氏の經歷中に見ざる所にして自黨以外
 にも非常の敬愛を得たるは實に此點に在るなり嗚呼平
 年四十五歳、壯年血氣にして早く已に九泉の客となる
 パーナルの遺恨、豈僅眉嬋娟の間にのみ止らざらんや

○澳洲の補充艦隊 本年九月二十二日、二二五
 に到着したる英國艦隊及澳洲補充艦隊
 英政府との特約に依り澳洲諸島民地
 し専ら其沿海の防禦に充つべき諸艦隊
 のあり)は左の如し
 一等軍艦 三隻
 二等軍艦 三隻
 三等軍艦 三隻
 四等軍艦 三隻
 五等軍艦 三隻
 六等軍艦 三隻
 七等軍艦 三隻
 八等軍艦 三隻
 九等軍艦 三隻
 十等軍艦 三隻
 ○英國の演劇及び器樂劇國博覽會
 五月七日より十月九日まで列國演劇及
 覽會を催すに開く、且に決し古今の右
 劇に關する藝人の肖像及び自筆の傳記
 器樂、樂譜及び本院に至るまでを
 演劇の繪圖類及びに裝飾の諸器具
 網羅して陳列し殊に諸國の人情風俗を
 を問はず普く諸國に於ける演劇及び音
 品を集むる見込にて委員は目下頻りに
 ○外國人の賑災義捐金高 岐早愛知二
 はんが爲め横濱東京神戸上海及び香港
 の義捐金高概略は即ち左の如し
 横濱及び神戸の新聞社にて募集せし
 銀行に於て募集せしもの 四千
 教師其他の募集せしもの 四千
 神戸に於ける獨逸人協會に於てせし
 直接救濟費として横濱ケイル氏の募
 長崎居留人の義捐せしもの
 上海居留人の義捐せしもの
 香港居留人の義捐せしもの
 右の合計は歐米人のみの義捐金高を示
 ば彼那人より離出せし千七百七圓は其
 倫敦に於て六百磅(約千七百圓)の
 未だ知る能はざるが故に是をも算入せ
 々思ひ、に震災地に赴き直接に施
 り又衣服其他日用品等施與したるも
 故に茲に記する高は素より總計に非ざ
 り抄譯
 ○京橋區協同會の義捐金募集 尾濃
 は各地とも義捐金募集なるが府下京橋
 氏は此程の寒天積雪にては猶一層の困
 どて濃尾越の三縣下へ相當に配分せ
 引續し十日午前歸京したり
 ○藥劑師の岐阜出張 帝國大學藥學
 師會より兼て岐阜知事の兩縣知事へ照會
 此程岐阜知事の申込により藥劑師四名
 地へ出張を命じたるよし
 ○審問又々延期す 藤町區會より富田府
 條例第九號の交渉事件は一昨一日審問の
 八宮城清義氏の不在に付來る十一日に延
 ○中毒者の解剖 京橋區本八丁堀四丁目
 店尾崎久藏の屋敷和泉ッ(十六)は去る
 の者と都合三人にて河豚を食したるに